



神奈川県

かながわグランドデザイン(仮称) 基本構想編 素案

平成 23 年 12 月

この冊子では、「県民」、「県」及び「神奈川」を次の意味で使用しています。

「県民」: 神奈川県で活動する者すべてを含む総称とし、住民、勤務者、法人、団体を含みます。(なお、一人ひとりの個人や住民の活動に着目する場合は、「県民」を個人の意味で用い、「県民、企業」などと列記します。)

「県」: 行政としての神奈川県を指します。

「神奈川」: 行政だけではなく、県民や県土などを含む県全体を指します。

目 次

策定に当たって	2
第1章 基本目標	7
1 基本理念	8
2 神奈川の将来像	8
第2章 政策の基本方向	11
1 政策展開の基本的視点	12
2 政策分野別の基本方向	14
(1) エネルギー・環境	14
(2) 安全・安心	16
(3) 産業・労働	18
(4) 健康・福祉	20
(5) 教育・子育て	22
(6) 県民生活	24
(7) 県土・まちづくり	26
3 地域づくりの基本方向	28
(1) 基本的考え方	28
(2) 地域政策圏	28
・川崎・横浜地域圏	29
・三浦半島地域圏	30
・県央地域圏	31
・湘南地域圏	32
・県西地域圏	33
第3章 基本構想の見直し	35
＜神奈川をとりまく社会環境＞	39
1 少子化、高齢化と人口減少	40
2 国際化と情報化	42
3 産業構造の転換と働き方の多様化	44
4 エネルギー・環境問題の新たな展開	46
5 暮らしの様々な課題	48
6 地方分権改革の進展	52

策定に当たって

1 策定の趣旨

県では、県政運営の総合的・基本的指針を示す総合計画として、2007（平成19）年に「神奈川力構想・基本構想」及び「神奈川力構想・実施計画」を策定し、将来の人口減少社会を見据えた着実な備えを進めてきました。

2010（平成22）年度に「実施計画」の最終年度にあたって、総合点検を行った結果、神奈川をとりまく社会環境に動きはあるものの、「基本構想」で見通した、人口減少社会の到来や少子化の進行、高齢化の加速、国際化や情報化の進展、地域や家庭のあり方の変化などの将来の方向性（詳細は、巻末の「神奈川をとりまく社会環境」を参照）に、大きな変化は見られないことから、引き続き「基本構想」の方向性に沿って取組みを進めることとしました。

しかし、2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故は、国難とも言える未曾有の被害をもたらし、県民生活や経済活動などの様々な局面に影響を与えました。

そこで、県民への新たなメッセージを「基本目標」として掲げるとともに、社会環境の変化により対応が必要となった課題を踏まえて「基本構想」を見直し、「かながわグランドデザイン（仮称）基本構想編」としてとりまとめました。

2 基本構想の見直しの視点

確実に到来する超高齢社会などに十分な対応を図るとともに、東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故に起因する社会環境の変化への対応を行う必要があることから、次のような視点をもって、2025（平成37）年の将来像に向けた政策の方向性を整理しました。

電力不足への対応

大規模な電力不足が発生し、電力使用制限が行われたことなどにより、工場などで輪番停電の実施や操業時間の変更を余儀なくされるなど産業活動が制限され、県経済が大きな打撃を受けました。また、県民のくらし全般が電力不足による影響を受けていますが、今後も、原子力発電所の再稼働は不透明な状況にあります。



将来にわたるエネルギーの安定的な確保が求められています

災害対策の見直し

東日本大震災の与えた想定を越える津波被害や液状化現象などは、大規模地震や津波などの自然災害から身を守ることに對する県民の意識の変化をもたらしています。



災害対策の抜本的な見直しが求められています

放射能対策の強化

福島第一原子力発電所の事故に起因する放射能汚染は、大気、水道水、食品などくらしをとりまく環境の安全性を脅かしています。



くらしの安全・安心の一層の確保が求められています

3 目標年次

2025（平成37）年

4 計画の構成

第1章 基本目標

- 1 基本理念 「いのち輝くマグネット神奈川」を実現する
- 2 神奈川の将来像 行ってみたい、住んでみたい、人を引きつける魅力あふれる神奈川
いのちが輝き、誰もが元気で長生きできる神奈川
県民総力戦で創る神奈川

第2章 政策の基本方向

- 1 政策展開の基本的視点
 - (1) 神奈川からエネルギー政策を転換します
 - (2) 環境と共生し持続可能な社会づくりを進めます
 - (3) 暮らしの安全・安心を確保します
 - (4) 地域に活力を生み出します
 - (5) 少子化、高齢化への対応を進めます
 - (6) 豊かさの質的充実を支援します
 - (7) 県民との協働・連携を強化します
 - (8) 地域主権を実現し、広域連携の強化など広域自治体としての責任を果たします
- 2 政策分野別の基本方向
 - ①エネルギー・環境 ②安全・安心
 - ③産業・労働 ④健康・福祉
 - ⑤教育・子育て ⑥県民生活
 - ⑦県土・まちづくり
- 3 地域づくりの基本方向
 - 川崎・横浜地域圏 ○三浦半島地域圏
 - 県央地域圏 ○湘南地域圏
 - 県西地域圏

第3章 基本構想の見直し

神奈川をとりまく社会環境

- 1 少子化、高齢化と人口減少
- 2 国際化と情報化
- 3 産業構造の転換と働き方の多様化
- 4 エネルギー・環境問題の新たな展開
- 5 暮らしの様々な課題
- 6 地方分権改革の進展

神奈川のすがた

神奈川は、905万人の人口を擁し、世界に開かれた日本の窓として、時代を先導するとともに、力強い経済力をもって、我が国の発展を支えてきた地域です。

世界に開かれた神奈川

・ 経済のグローバル化や情報化の進展などにより、海外との交流はこれまでも増して急速な広がりを見せています。とりわけ中国やインドをはじめとするアジア諸国の経済成長は著しく、我が国との結びつきが一層強まっています。

- ・ 神奈川は、これまでも、世界に開かれた窓として、世界と日本を結ぶ重要な役割を担い、様々な分野における交流を通じて、豊かな国際性を育ててきました。
- ・ 横浜港、川崎港、横須賀港といった国際貿易港を擁し、国際化された羽田空港に隣接する位置にあり、高度な科学技術や先端産業の集積する神奈川は、アジア、そして世界に開かれた国際交流拠点としての役割を果たしています。



首都圏を支える個性豊かな神奈川

・ 首都圏は、我が国の政治、経済、文化等の様々な活動の中心的役割を担うとともに、約4,000万人の人々が居住する生活の場となっており、我が国を牽引し、活力を創出する地域として発展してきました。

- ・ 首都圏の中で、神奈川には自立性の高い都市拠点が形成され、業務、商業、居住などさまざまな機能を担っています。首都圏経済にあっては、ものづくりの分野で、京浜臨海部や県央・湘南地域などを中心に大きな役割を担っており、近年は県内全域で研究開発機能の集積が進むなど、国際競争力のある産業拠点の形成が進んでいます。
- ・ また、神奈川は、首都圏はもとより国内外から多くの人々が訪れる多彩な自然環境や豊かな歴史・文化を有しています。
- ・ 神奈川は、独自性や自立性を生かし、安全で快適な生活の場として、県民のくらしや様々な活動が展開されるとともに、首都圏の活力創出に向けて重要な役割を果たしています。



多彩な 魅力をもつ 神奈川

世界に開かれ、首都圏を支えてきた神奈川は、常に新しい時代を切り拓いてきた進取の精神をはじめ、多彩で優れた魅力を持っています。これらは自然や歴史・風土、そして神奈川に働き、学び、くらし、活動する人々により培われてきたものです。

○ 高い経済力

- ・ 県内総生産は、2008（平成 20）年度で約 30.9 兆円と、デンマークとフィンランドの国内総生産の間に位置し、一国の経済に匹敵する、高い経済力を有しています。

○ 競争力の高い産業

- ・ 神奈川には、約 560 の企業の研究機関や、先端的な技術を活用した生産拠点や大学などが数多く立地し、国際的にも競争力の高い産業が集積しています。

○ 高い利便性

- ・ 首都圏という大消費地に位置し、自動車専用道路や鉄道網などの、県民活動や企業の経済活動を支える利便性の高い交通ネットワークの形成が進められています。

○ 水資源の確保

- ・ 県民が安心して水を利用でき、企業も安定した事業活動ができる水資源が確保されています。また、地震や台風などの災害に強い県土づくりが進められています。

○ 多彩な自然環境

- ・ 箱根や丹沢大山などの緑豊かなやまなみ。豊かに流れる多摩川や相模川、酒匂川。湘南なぎさをはじめとする相模湾から東京湾に至る変化に富む美しい海岸線など、神奈川は多彩な自然環境を有しています。

○ 歴史と文化

- ・ 歴史の舞台となった武家政権誕生の地・鎌倉、北条氏の城下町・小田原、近代日本開国の地・横浜などを抱えるとともに、各地域に魅力ある伝統や文化が育まれてきました。

○ 豊かな国際性

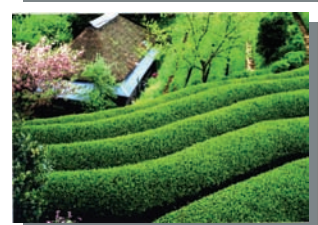
- ・ 我が国の文明開化発祥の地として、日本の近代化のために大きな役割を果たした神奈川は、進取の精神に富み、開放的な県民性を有しています。また、約 17 万人の外国籍県民が働き、くらす、国際性豊かな地域となっています。

○ 多彩な県民活動

- ・ 神奈川は、全国で第 2 位となる約 905 万人の人口を擁しており、福祉、環境、防犯、国際交流などの様々な分野で、NPO やボランティアなどによる多彩な活動が展開され、多くの県民が意欲をもって参加し、相互のネットワークの形成が進んでいます。

○ 集まる人材

- ・ 神奈川には約 31 万人の科学研究者・技術者が在住し、その数は全国でもトップクラスとなっています。また、神奈川には 72 もの大学や短期大学が立地し、全国各地から多くの若者が集まるなど、様々な分野の人材が集い、活躍しています。



神奈川の人口ピラミッド

- 神奈川の人口は引き続き増加しており、2010（平成22）年には905万人となっています。
2010（平成22）年の人口ピラミッドを見ると、60歳代前半の第一次ベビーブーム※世代（団塊の世代）や30歳代後半の第二次ベビーブーム※世代が多い一方で、その後の出生減により15歳未満の世代が少なくなっているなど、凹凸が顕著な人口構成となっています。
- しかし、今後、第一次・第二次ベビーブーム世代が65歳以上の高齢者となることにより高齢化が加速し、超高齢社会に移行するとともに、出生率が低水準で推移することにより少子化が進行し、人口減少社会となることが予測されています。そのため、超高齢社会や人口減少社会への十分な対応を図る必要があります。

図 1
1970（昭和45）年
総人口 574万人

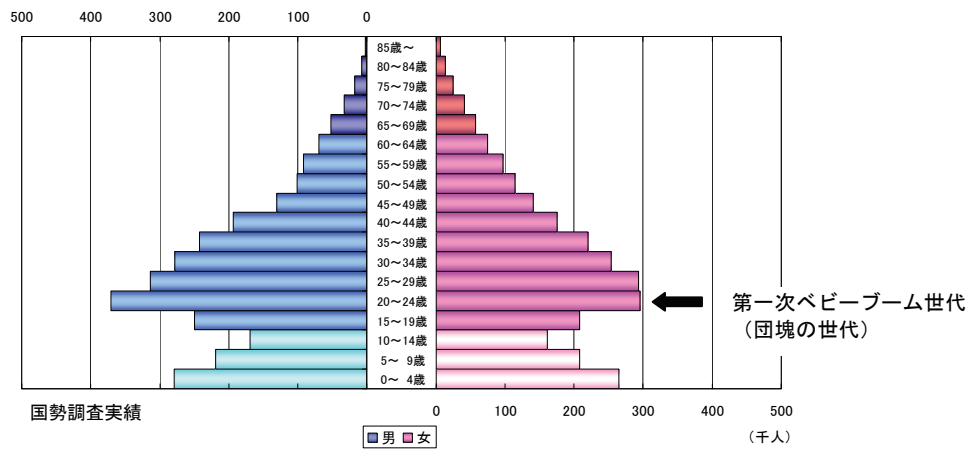


図 2
2010（平成22）年
総人口 905万人

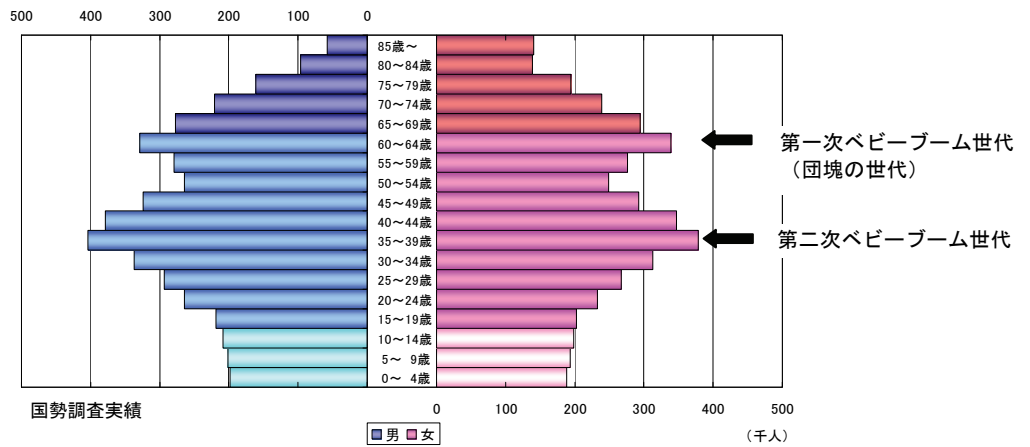
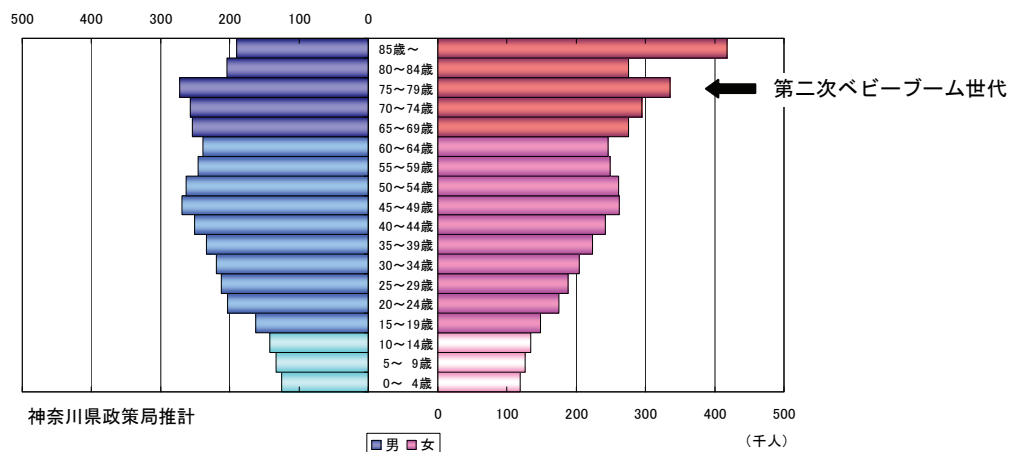


図 3
2050（平成62）年
総人口 806万人



※第一次ベビーブーム…1947（昭和22）年～1949（昭和24）年における出生の急増。
第二次ベビーブーム…1971（昭和46）年～1974（昭和49）年における出生の急増。